

こんなにおかしい！ ニッポンの鉄道政策

その1. 建設

道路＝社会資本として国が税金で建設

空港＝社会資本として国が税金で建設

港湾＝社会資本として国が税金で建設

鉄道＝鉄道会社の財産として鉄道会社が建設

同じ公共交通なのに、おかしくありませんか？

道路、空港、港湾は公共輸送の役割を担う重要な社会資本として交通政策に位置づけられています。建設は国・自治体が税を投入する公共事業です。

これに対し、鉄道だけは鉄道会社が自分たちの会社の事業として建設を行います。国や自治体から建設のための補助金が支給されることもありますが、公営鉄道でもない限り、国や自治体の全面負担で公共事業として建設されることはありません。

外国では鉄道が国営・公営や、民営の場合でも線路は国が保有する「上下分離」で建設は国が行う場合がほとんどです。日本の政策は異常です。

その2. 維持管理・災害復旧

道路＝公共財として国が税金で実施

空港＝公共財として国が税金で実施

港湾＝公共財として国が税金で実施

鉄道＝鉄道会社の財産として鉄道会社が実施

同じ公共交通なのに、おかしくありませんか？

道路、空港、港湾は、日常の維持管理も国や自治体が税金を投入し、公共事業として実施します。

鉄道だけは鉄道会社が自分たちの会社の事業のために維持管理を行います。大規模災害で被災した際には国や自治体から復旧のための補助金が支給されることもありますが、公営鉄道でもない限り、国や自治体の全面負担で公共事業として復旧が行われることはありません。

外国では維持管理も国が行うのが普通です。

その3. 赤字になったら

道路＝緊急時に必要なので赤字でも国が維持

空港＝緊急時に必要なので赤字でも国が維持

港湾＝緊急時に必要なので赤字でも国が維持

鉄道＝地元が必要訴えても赤字なら廃止

同じ公共交通なのに、おかしくありませんか？

道路はそもそも収支で論じられることがありません。「あんな道路誰が使うの？」と問題点を指摘する人がいても「救急車が通るときに必要」だと大声で反論され、無駄遣い批判さえ許されません。空港、港湾も無駄遣いを批判すれば「大災害時に緊急物資の輸送ができなかったらどうする」と言われます。

しかし鉄道だけは、高校生やお年寄りがどんなに「通学、通院に必要」と訴えても「赤字なら廃止だ」と言われます。鉄道だけ収支で廃線を主張する人たちは、同じ公共交通なのに鉄道だけ例外である理由を示すべきです。

その4. 税制

道路＝全自治体で地方交付税の算定対象

空港＝関係自治体で地方交付税の算定対象

港湾＝関係自治体で地方交付税の算定対象

鉄道＝関係自治体でも地方交付税の算定対象外

同じ公共交通なのに、おかしくありませんか？

日本の地方自治は3割自治と言われます。独自財源が3割しかなく、7割が地方交付税でまかなわれているからです。しかし、ここでも公共交通なのに鉄道だけ地方交付税の算定対象ではありません。

安全問題研究会の問い合わせに対し、国は「全自治体に共通する社会資本でない」と算定対象にできないと言います。しかしどの自治体にもあるわけではない空港、港湾は算定対象になっています。

ここでも鉄道だけが不当な差別を受けています。

その5. 住民意識

道路＝誰かが必要なら税投入で維持すべき

空港＝誰かが必要なら税投入で維持すべき

港湾＝誰かが必要なら税投入で維持すべき

鉄道＝自分が普段使わないから廃止仕方ない

同じ公共交通なのに、おかしくありませんか？

赤字鉄道路線の廃止が提案されると、沿線住民の多くから「誰も乗らない、普段使わないから仕方ない」という声がよく聞かれます。でも、同じ人が道路、空港、港湾には「使う人がいるから必要だよ」と言っています。地域住民のみなさんも今までの常識を、少し疑ってみませんか？

公共交通の安全と未来を考える 安全問題研究会

<https://transportation.sakura.ne.jp/>

e-mail:aichi200410@yahoo.co.jp



鉄道はぜいたく品でも覚悟で残すものでもありません！

JR北海道の経営危機が表面化して以降、沿線の私たちは「専門家」によって、鉄道は地域にとってぜいたく品であり、残したければ地元が「覚悟」を示すのが当然であるかのように信じ込まされてきました。確かに鉄道は地域にとって宝物であり、そこに多くのファンや観光客が訪れます。テレビに登場するのはいつも豪華列車の旅であり、豪華バスや豪華飛行機、豪華自転車ではありません。こうしたイメージ操作によって、私たちは知らず知らずのうちに「鉄道は特別」「ハレの日に身につける和服や宝飾品と同じで、100円ショップで買う日用品とは別物」だと思わされているのです（写真上＝川を渡る日高線）。

自分たちは、他の地域にはない、特別なものを持っていると思えることは、沿線住民にとって幸せなことですが、専門家の言う「覚悟」とは別の問題です。環境破壊や財政赤字の拡大を心配する人たちが必死に反対しても道路は

どんどん税金で造られるのに、なぜ鉄道だけ残すのにこんなにも「覚悟」を求められるのでしょうか？

大都市と社会的強者だけで社会は成り立つのか？

鉄道は単なる乗り物であり交通機関です。バスや船や飛行機と同じです。これらはすべて税金で維持されています。赤字だから道路をなくせ、空港をなくせという人はいません。通学、通院、買い物に必要——残すのにこれ以上の理由は不要です。黒字だから残すのではなく、必要だから残すのです。

北海道は首都圏の人々の食料の多くを担っています。東日本大震災で東北本線が不通になったとき、寒さに震える東北の人へ、新潟県を迂回して貨物列車で石油が届けられました（写真下＝迂回輸送による石油到着を伝える福島放送から）。お金を稼ぐ大都市と社会的強者だけでは社会は成立しません。私たちが縁の下で支えているから社会は成り立っているのです。そのことに誇りを持ち、「北海道の鉄路を残せ」と胸を張って主張しましょう。

